



国臨協関信

HP: <http://www.alpha-net.ne.jp/users/2/kansinko/>
パスワード: kansin

平成21年 6 月

事務局 〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療センター戸山病院臨床検査部内
発行者 三浦隆雄
編集委員 渡司博幸・峰岸正明・深澤文子
久間修平
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第37回 国臨協関信支部 学会・総会

日時：平成21年 9 月 5 日(土) 場所：国立国際医療センター戸山病院

特別講演

特定健診とその役割

はじめに

2008年 4 月から特定健診制度がスタートした。ご承知のように、降って湧いたように日本人は 2 0 0 0 万人以上がメタボリックシンドロームに罹患しているので、これをチェックするために、従来の健診を改めメタボリックシンドロームを容易に検出できるようにして、かつ早期に介入することにより疾患の重症化を防ぎ、かつ国民の医療費を抑制することを目的としている。しかし、約 1 年が経過して大きな成果を挙げているのであろうか。少なくとも私の身近な市民は特定健診の意味がわかっていない、したがって関心も極めて希薄であり、いわゆる「メタボ」には関心が強いが特定健診と結びついていない、など盛り上がり欠けること甚だしい。

そこで、我々は特定健診の意義を知らしめ、また多くのメタボ人に対して警告を発するために、臨床検査技師諸君の力を借りる事とした。厚生労働省は健診に用いている臨床検査の精度管理の大切さを説いているが、誰が行うのかが明記されていない。当然臨床検査技師諸君であろう。

未病とは

聞き慣れない言葉が突然でてきたが、「未病」には以下のような定義がある。「軽微な症状があるが検査では異常がない」、「症状はないが検査で異常が見られる」状態を「未病」と呼ぶ。この定義でいくと、メタボリックシンドロームはまさに「未病」ということになる。

日本未病システム学会と認定未病専門指導師制度

この学会は 1 4 年以上前に設立され、活動しているが、特定健診で行われている指導を行う医師、栄養士、保健師などと共に、受診者の指導を行うための認定された指導師を養成する制度を立ち上げようということになり、今年度新制度が立ち上がる。既に認定医制度は昨年発足して活動を開始しているが、他の職種（栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師）においても学会認定未病専門指導師制度を発足させるものである。グランドファーザーズルールに則り、5 0 名程度の専門指導師が認定された。今後学会員であることを前提として、試験により資格認定を行うこととしている。特定健診の国民への定着を基本にして、高騰する医療費を抑制し、国民の幸福を具現化するために諸君の参加を期待したい。



講師プロフィール

自治医科大学

櫻 林 郁之介 先生

【学 歴】

1961年 3 月 15 日 山梨県立甲府第一高等学校 卒業
1968年 3 月 15 日 日本大学医学部 卒業

【職 歴】

1968年 8 月 1 日 日本大学医学部臨床病理学教室 助手
1974年 4 月 1 日 自治医科大学臨床病理学教室 講師
1979年 2 月 1 日 自治医科大学臨床病理学教室 助教授
自治医科大学附属病院臨床病理部 副部長
1981年 9 月 1 日 米国Scripps Research Institute, visiting professor
1988年 2 月 1 日 自治医科大学臨床病理学教室 教授
1989年 12 月 1 日 自治医科大学附属大宮医療センター
総合医学第一講座 教授 臨床検査部 部長
2006年 4 月 1 日 自治医科大学大宮医療センター 副センター長
2008年 4 月 1 日 さいたま記念病院 名誉院長
上野原市立病院 顧問

【賞 罰】

1987年 10 月 日本電気泳動学会 学会賞（児玉賞）受賞
2004年 10 月 日本電気泳動学会 国際学術奨励賞 受賞
2007年 8 月 世界病理・臨床検査医学会連合（WASPALM）有功賞

【所属学会等】

1. 国際関係
世界病理・臨床検査医学会連合（WASPALM）
1998年～2007年 Executive Director (Tokyo Office)
世界病理学基金（WPF）
1998年～2007年 事務局長（Secretary）
アジア臨床検査医学会議（ASCPALM）
2004年 11 月 第 8 回学術総会総会長（インドネシア メダン）
2005年～2006年 会長（President）
国際臨床化学連合（IFCC）
1998年～1999年 Lp(a)標準化委員会 国際委員
1998年～2001年 国際交流委員 展示委員長
アメリカ臨床化学会（American Association of Clinical chemistry）
2007年～ 脂質・動脈硬化分科会（LVDD）理事
2. 国内学会
日本臨床検査医学会 1996年～1998年 関東甲信越支部長
1998年～2004年 会長（臨床検査医学専門医）
日本電気泳動学会 1996年～ 理事
2002年～2004年 副会長
日本臨床化学会 2000年～2004年 理事
日本動脈硬化学会 1995年～ 評議員
日本臨床検査自動化学会 1988年～ 評議員
日本未病システム学会 2004年～ 理事（未病医学認定医）

認定試験に合格して

超音波検査士認定試験に合格して



NHO長野病院
柳 澤 隆 司

超音波検査士を目指すきっかけは、前々から超音波検査はX線とは違い、人体にあまり影響がなく、診断できることに興味があったからです。それを学ぶために生理検査の配属希望をしていました。そのかいあって横浜医療センターに在籍していた平成16年秋頃に生理検査にローテーションになり、超音波検査士の受験を考え準備をしてきました。そんな中、運命とは過酷な試験を与えてくれるもので、昇任ではありましたが、栃木病院へ異動となりました。当然のよう部署が変わり、しばらく超音波検査から遠ざかっていましたが、超音波検査への思いが諦められず休日は、勉強会に参加し自分なりに準備を始めました。しかし超音波を指導する先生や認定技師がいないため、休みや当直明けを利用し宇都宮病院の南雲主任（現：西埼玉中央病院副技師長）の所にいき、実際にプローブを持たせてもらい、プローブの動かし方や写真の撮り方など基本的なことを教わりました。さらに、受験申請のための症例の添削もしてもらいました。

1回目の試験では基礎問題が難しいとは聞いていたものの、波長・ドプラ等馴染みのない言葉ばかりで、どうしても、やる気が出なく、焦りや時間ばかり過ぎてしまいました。試験開始の合図で一問目からつまづき、油汗が出てきました。その後のことはあまり覚えていません。1ヶ月後の不合格の通知が届いた時は、「来年こそは絶対合格するぞ・・・」とは思えず、来年は「どう勉強したら合格できるだろう」と悩みました。超音波の基礎問題は、公式を覚えてだけでは解けず、超音波の原理などを一つ一つ理解しなければなりません。勉強会で「試験は満点を取る必要はない合格ラインを超えていればいい」という言葉を思い出し、自分の出来る問題から確実に覚えようと思いました。何回も書くことにより眠気を飛ばし、頭の中に詰め込んでいきました。勉強した次の日は昨日やったことは覚えているが2、3日もすれば忘れてしまうのが現実です。そのため、繰り返し問題を解きました。そして、認定試験への再チャレンジ。不安な1ヶ月を過ごしました。結果は届いていましたが封を切ることができず、そのままにしまいました。そんな中、長野病院への異動がありました。栃木病院では、超音波検査士が合格したら転勤になるという、ジンクスがありますが、そのジンクスを更に確実なものとししました。

これからも、日々勉強を重ねていきたいと思っています。

最後になりましたが、超音波検査士を取得するにあたり、ご指導していただいた南雲副技師長をはじめ、多くの方々にこの場を借りて心より感謝を申し上げます。

超音波検査士認定試験に合格して



NHO甲府病院
齊 木 克 央

超音波検査学会に入会して以来、念願の超音波検査士（消化器）の認定を昨年取得することができました。超音波検査学会に入会してもなかなか検査に携わることはなかったのですが、検査科で腹部超音波検査を実施することになり、予ねてより希望だった超音波検査に携わることとなりました。始めた頃は目的とする画像を描出することが困難で毎日冷や汗をかきながら検査を行っていたことを思い出します。そんな中、諸先輩の指導の下多くの症例を経験し少しずつですが技術・知識が伴ってきたので自分への挑戦の為、認定試験を受験することにしました。筆記試験の勉強は学生時代に覚えた単語や公式が多く、勉強会や講習会があれば積極的に参加し、忘れかけていた記憶を思い返しながら必死になり勉強しました。

不安の残る中試験当日を迎えました。緊張しながらも一問一問着実に問題を解いていきましたが、最後は時間が足りなくなり見直しも十分にできないまま試験が終了してしまいました。そのため、終わった直後の開放感も時を追うごとに不安な気持ちに変わり、試験結果が届くまでは落ち着かない日々でした。可否の結果通知が届いたときはそんな思いからか、なかなか封筒を開けられずにいたのですが、意を決して開いた封筒の中には合格と書かれた通知が入っていました。念願の認定資格を取得できたという喜びと同時にひとつの壁を乗り越えたという達成感でいっぱいになりましたが、それに満足せず今年は循環器領域で受験し、努力の甲斐あり無事合格することができました。これから、新たな目標を掲げ日々邁進していくことで自己の向上に繋げていきたいと思っています。

最後になりましたが、受験をするにあたり色々のご指導いただいた諸先輩の皆様、忙しい中研修に参加させていただきご協力いただいた職場のスタッフ、認定試験対策セミナーを開催していただいた関信支部役員の皆様、講師の先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。





NST専門療法士に合格して

NHO下志津病院
小 池 容 子

施設が第三者機関『日本栄養療法推進協議会：JCNT』でNST稼働施設認定を受ける際、認定基準に認定NST臨床検査技師も活動参加が挙げられています。臨床検査技師は現在まだ暫定でNST活動参加となっていますが、今後NST専門臨床検査技師が居ない施設はNST稼働認定を取り消される可能性があります。NSTとは、栄養管理を症例や治療に応じて適切な栄養療法を実施する多職種で栄養療法を実践するチームです。定義上では、医師も臨床検査技師も同一な立場で意見交換を行うこととなっていますが、実際には能力不足や威圧感からお伺いを立てる程度が現状です。しかし、個人の努力しだいで栄養療法における診療に関われます。

これはアウトソーシングでは出来ない臨床検査技師の新たな世界だと思います。NSTの受験資格は臨床検査技師として5年の経験年数、年1回開催される学術集会参加、全国で年4～5回開催される教育セミナー参加、認定教育施設での40時間実地研修および症例報告書、その他10単位の教育単位が必要です。受験資格に必須な次期学術集会は平成22年2月25.26日に幕張メッセで開催予定です。私が参加した平成20年は京都、平成21年は鹿児島開催でした。次年は近場で気軽に参加出来る会場ですので是非参加して下さい。平成20年の認定試験では、受験者数1,263名、合格率74.1%で臨床検査技師は123名が合格しました。臨床検査技師はNST専門療法士の中で最も人数が少なく、肩身が狭い思いをしています。一人でも多くの認定者が増加することを希望します。今回受験勉強をした感想は、拒絶反応による睡魔がおそい、近年まれにみる熟睡が出来、確実に20代と40代では頭に入る容量の違いが判りました。今後は知識を深め治療の一環に貢献出来るよう、頑張りたいと思います。



学術部からのお知らせ

5月30日（土）の症例検討会より、国臨協・関信支部主催の研修会では、日臨技・生涯教育認定のための提出書類（証明書）の配布を行っています。ぜひ、ご活用ください。

血液研修会に参加して

NHO相模原病院
木津谷 亮



平成21年2月21日(土)NHO東京医療センターにおいて開催された関信支部主催「血液形態学の基礎と臨床」と題した血液研修会に参加させていただきました。当日は春の暖かさを感じられる行楽日和にも関わらず、会場には多数の参加者で席がうまり、関信支部研修会で骨髓像検査に的を絞った内容は今年度では初めてと言うこともあり、その熱意が伝わってきました。

第1部では、国立がんセンター中央病院主任技師の熊澤 寛子先生に「血液形態検査の標準化と骨髓像検査の実際」をテーマとして講義していただきました。血液形態学の基礎から、各種細胞における形態表現の標準化や骨髓像検査の実際、またFAB分類とWHO分類の活用まで判りやすく解説して頂き、検査技師の技量が問われる検査であることを再認識しました。

第2部では、東海大学医学部付属八王子病院の村瀬 忠先生による「白血病の診断と治療」と題した講義が行われました。白血病と診断された症例を提示し、検査・診断・治療までの流れを詳しく解説して頂きました。所々でスライドに映される先生の愛犬達に心を癒されながら、血液検査の経験が浅い私にも理解しやすく、集中して講義を聴くことが出来ました。

今回の研修では、自分にさらなる知識・技術向上の必要性が感じられ、血液検査を行っていく上で大変勉強になりました。

最後に、ご多忙のなか講義をしていただきました熊澤寛子先生、村瀬 忠先生に深く感謝すると共に、研修会を企画していただいた関信支部役員の皆様に心からお礼を申し上げます。

最後に、ご多忙のなか講義をしていただきました熊澤寛子先生、村瀬 忠先生に深く感謝すると共に、研修会を企画していただいた関信支部役員の皆様に心からお礼を申し上げます。



院内感染対策研修会を受講して

NHO下総精神医療センター 山 崎 剛

去る3月5日、6日の2日間に渡り、NHO東京医療センター大会議室にて「平成20年度院内感染対策研修会」が開催されました。新型インフルエンザの発生が懸念されている時期でもあり、どのような話を聞けるのかと期待して参加しました。

初日の開講式から始まり、スタンダードプリコーションを中心とした感染制御の基礎から、感染症に関する法令、抗菌薬療法の基礎、適正使用等、11の講義があり実に内容の濃いものでした。どれも勉強になるものばかりでその全てをご紹介したいのですが、紙面の関係上割愛させて頂き、今回はワークショップのお話をします。

- ・総合内科病棟でインフルエンザ発生！
- ・血液培養からアシネトバクターの検出が月に2例見られた！

7～8人のグループに分かれ、その中で司会、書記、

発表者に役割分担をし、上記の課題のいずれかについて、(課題はグループ毎に決められている) ITCとしてどのように対応すべきかをディスカッションしていきます。講義の資料をめくりながら、実際の経験を踏まえながら、その場面を想像しながら議論を深めていきます。それぞれのグループには、様々な職種の人が振り分けられ討論するのですが、結論の導き方が職種によって微妙に違い、意志の疎通の難しさを感じました。それは、チーム医療を行う上でもいえる事で、改めてコミュニケーションの重要性を実感した次第です。

意見をまとめ発表し終わる頃には、一体感が生まれ、そしてスタンダードプリコーションの重要性が擦り込まれました。

2日間に渡りとてもハードで有意義な研修会でした。

最後になりましたが、このような研修会の開催にご尽力くださいました皆様と、少人数ながら快く送り出してくれた、当院検査科のスタッフに感謝いたします。ありがとうございました。

平成20年度臨床検査精度管理調査報告会報告

学術担当 会 田 ・ 広報担当 峰 岸

平成21年3月6日(金)日本医師会館にて行われた「平成20年度臨床検査精度管理調査報告会」に出席したのでその要旨を報告します。

今年度は昨年をさらに上回る3,161施設の参加が有りました。調査項目は臨床化学一般検査8項目、酵素検査8項目、脂質検査4項目、HbA1c、腫瘍マーカー5項目、甲状腺マーカー2項目、感染症マーカー3項目、免疫グロブリン3項目、尿検査3項目、血液学的検査6項目、凝固検査3項目の全46項目です。今回よりインターネット回答を採用し、郵送方式と併用した。インターネット回答は1,412(44.7%)施設で実施された。臨床検査薬協会より頂いた資料を基に試薬と機器メーカーの誤登録の防止を行ったのでアンマッチ施設数が減少した。インターネット回答で申し込まれたのに連絡無く郵送に切り替え、トラブルが生じた例があるので気を付けていただきたい。

集計上の問題点として、測定原理や緩衝液の分類違い、桁間違いなどの誤記入、機器試薬分類を「製造販売元」でなく「販売元」で記入している施設が少なくない。販売されていない機器試薬メーカーと測定原理の不一致例で多いのはブドウ糖2.5%、中性脂肪2.6%等である。これらの間違いは、自施設の評点のみならず集計データに悪影響を及ぼすので、不明な場合は試薬メーカーへ確認していただきたい。

評価・評点作業について、絶対評価をコンセンサスCV値で行い、濃度・活性値が低値の場合は補正共通CV値を考慮した。尿半定量検査はランク別評価をした。臨床化学検査では可能な限り一群評価を試みたが、多くは原理別評価となった。平均値から偏りが大きな試薬やドライケミストリー法はその程度を算出し独立評価とした。3年連続ALP緩衝液の誤登録を重ねた施設は、0点とした。血液検査は機種群別とした。止血凝固検査評価を、(機器×試薬)の群別評価とした。誤登録項目は「評価せず」とした。C・D判定のみならず「評価せず」の項目については原因の追及をして

いただきたい。例年、同一担当者で行っている部署では、必ずもう1人加えて記入を行ってください。

結果の講評

1. トレサビリティ 確認は60%前後の施設で実施されており、特に健診施設で高かった。
2. 臨床化学一般項目、酵素項目ではバラツキが小さく、施設間差互換性が確保できている状態と考える。
3. 酵素項目はJSCC・ERM法の普及で収束化が進んでいる。
4. 総コレステロールは収束していたが、HDLおよびLDLコレステロールは試薬間差がみられた。
5. HBs抗原で50施設(2.1%)、4施設(0.2%)が陰性、HCV抗体では7施設(0.3%)が陰性、9施設(0.4%)が陽性であった。
6. 腫瘍マーカーのRIA法はなくなったが、バラツキはあまり改善されていない。
7. 尿検査では判定が分散しないような濃度設定としたが、左右に外れた施設もあった。目視法での判定基準、判定装置の設定基準を再検討してもらいたい。
8. CBCはほぼ収束しているが、網赤血球はバラツキが大きい。
9. PTは試薬×装置の数が多く、バラツキが大きく問題である。
10. 総合評点の平均点は96.25でした。次年度からはヒストグラムに自施設の位置を示し配布したい。

昨年に引き続き標準物質のある生化学項目については良好の結果となったが、標準物質の供給が難しいPT-INR、生検体を使用する網赤血球については最後の討論会でも意見が多く問題が残ったようです。また、尿検査項目は定量値を基に定性値を設定しているとのことでした。今後、日常の精度管理において低濃度、高濃度だけでは対応できないと考えられます。以上、平成20年度精度管理における評価と問題点をまとめてみました。これらの点につき自施設の現状を再度確認していただき、さらなる躍進に向け努力しましょう。

人 / 事 / 異 / 動

【平成21年 2 月28日付 辞職者】

氏 名	施設名	役職名	辞 職
鎌 倉 丈 紘	がんセンター東	技師	

【平成21年 3 月 1 日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
山 口 卓 也	がんセンター東	技師(採用)	国際医療戸山	非常勤

【平成21年 3 月31日付 辞職・退職者】

氏 名	施設名	役職名	氏 名	施設名	役職名
佐 藤 本 則	茨城東病院	技師長	小 坂 諭	成 育 医 療	主任技師
石 川 修 子	神奈川病院	技師長	熊 澤 哲 夫	国際医療戸山	主任技師
山 田 敏 也	下総精神医療	技師長	矢 畑 時 秋	栗生楽泉園	主任技師
笹 村 強	霞ヶ浦医療	技師長	高 崎 郁 代	横 浜 医 療	主任技師
北 原 一 司	まつもと医療松本	技師長	松 本 はつ代	高 崎 病 院	主任技師
横 田 彰	さいがた病院	技師長	河 田 正 子	栃 木 病 院	技 師
上 原 信 夫	成 育 医 療	技師長	藤 巻 好 正	東長野病院	技 師
吉 田 正 勝	村 山 医 療	技師長	田 中 結 和	霞ヶ浦医療	技 師
石 井 昇	障害者リハビリ	技師長	岡 村 望 美	下総精神医療	技 師
高 野 康 壽	国際医療国府台	主任技師	大 澤 龍 矢	まつもと医療松本	技 師
伊 東 ひろ子	がんセンター中央	主任技師	吉 田	宇都宮病院	技 師
杉 本 仁	相模原病院	主任技師			

【平成21年 4 月 1 日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名	氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
宮 崎 澄 夫	成 育 医 療	技師長	災 害 医 療	技師長	屋 代 達 志	栃 木 病 院	主任技師	高 崎 病 院	主任技師
原 田 正 一	災 害 医 療	技師長	西埼玉中央	技師長	古 江 裕 弘	西新潟中央	主任技師	沼 田 病 院	技師
宮 口 行 雄	西埼玉中央	技師長	千葉東病院	技師長	大 沼 智 男	神奈川病院	主任技師	成 育 医 療	技師
樋 原 久 晃	茨城東病院	技師長	千 葉 医 療	副技師長	椎 名 將 昭	埼 玉 病 院	主任技師	相模原病院	技師
當 銘 良 也	神奈川病院	技師長	がんセンター中央	副技師長	橋 本 洋 二	茨城東病院	主任技師	東 京 医 療	技師
内 野 厳 治	下総精神医療	技師長	甲 府 病 院	副技師長	澤 部 祥 子	がんセンター中央	主任技師	精神・神経	技師
渡 司 博 幸	霞ヶ浦医療	技師長	精神・神経	副技師長	仲 間 盛	国際医療国府台	主任技師	がんセンター東	技師
日 吾 雅 宣	まつもと医療松本	技師長	相模原病院	副技師長	渡 辺 靖	千 葉 東 病 院	主任技師	国際医療国府台	技師
菅 孝 孝	さいがた病院	技師長	がんセンター東	副技師長	植 松 明 和	成 育 医 療	主任技師	西新潟中央	技師
藤 澤 紀 良	千葉東病院	技師長	高 崎 病 院	副技師長	古 田 信 邦	国際医療戸山	主任技師	長 野 病 院	技師
前 野 しのぶ	障害者リハビリ	技師長	障害者リハビリ	主任技師	田 竹 雅 代	東長野病院	主任技師	まつもと医療松本	技師
阿 部 桂 子	がんセンター中央	副技師長	神奈川病院	副技師長	渡 佐 藤 裕	高 崎 病 院	主任技師	東 京 病 院	技師
小 川 勝 明	精神・神経	副技師長	水 戸 医 療	副技師長	佐 藤 明 子	障害者リハビリ	主任技師	障害者リハビリ	技師
海 原 桂 一	相模原病院	副技師長	下志津病院	副技師長	甲 斐 明 裕	精神・神経	技 師	災 害 医 療	技師
土志田 健	下志津病院	副技師長	新 潟 病 院	副技師長	古 賀 裕 浩	埼 玉 病 院	技 師	久里浜アルコール症	技師
久 高 果 市	千 葉 医 療	副技師長	国際医療戸山	主任技師	水 野 正 浩	東埼玉病院	技 師	横 浜 医 療	技師
岩 崎 康 治	甲 府 病 院	副技師長	横 浜 医 療	主任技師	伊 藤 憲 章	相模原病院	技師(採用)	栃 木 病 院	非常勤
赤 堀 良 道	水 戸 医 療	副技師長	埼 玉 病 院	主任技師	佐 藤 憲 章	東 京 医 療	技師(採用)	国際医療戸山	非常勤
吉 川 英 一	新 潟 病 院	副技師長	茨城東病院	主任技師	相 羽 拓 矢	災 害 医 療	技師(採用)	国際医療戸山	非常勤
大 川 正 人	がんセンター東	副技師長	霞ヶ浦医療	主任技師	土 田 昌 美	がんセンター東	技師(採用)	国際医療戸山	非常勤
目 崎 和 久	高 崎 病 院	副技師長	がんセンター中央	主任技師	高 杉 橋 本	西新潟中央	技師(採用)	西新潟中央	非常勤
山 内 大 助	国際医療戸山	主任技師	西新潟中央	主任技師	杉 原 理 恵	東 京 病 院	技師(採用)	高 崎 病 院	非常勤
坂 内 孝 宏	横 浜 医 療	主任技師	箱 根 病 院	主任技師	只 野 薫	久里浜アルコール症	技師(採用)	国際医療戸山	非常勤
宮 越 基 基	神奈川病院	主任技師	神奈川病院	主任技師	塩 谷 香 奈	国際医療国府台	技師(採用)	がんセンター中央	非常勤
武 山 茂 茂	がんセンター中央	主任技師	東 京 医 療	主任技師	上 野 将 臣	宇都宮病院	技師(採用)	がんセンター中央	非常勤
前 澤 直 樹	東 京 医 療	主任技師	がんセンター中央	主任技師	佐 藤 佳奈子	沼 田 病 院	技師(採用)		
原 田 宏 美	がんセンター中央	主任技師	千葉東病院	主任技師	小 池 麻友美	国際医療国府台	技師(採用)		
小松崎 正 博	相模原病院	主任技師	国際医療戸山	主任技師	小 松 美夕紀	栃 木 病 院	技師(採用)		
渡 邊 貞 澄	国際医療戸山	主任技師	栃 木 病 院	主任技師	志 村 幸 大	まつもと医療松本	技師(採用)		
中 條 幹 夫	栃 木 病 院	主任技師	霞ヶ浦医療	主任技師	笠 井 宏 委	横 浜 医 療	技師(採用)		
柳 澤 隆 司	高 崎 病 院	主任技師	長 野 病 院	主任技師		がんセンター中央	技師(採用)		

【平成21年 4 月30日付 辞職者】

氏 名	施設名	役職名	辞 職
田 添 テル子	国際医療国府台	主任技師	

【平成21年 5 月 1 日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名	氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
平 原 博 美	国際医療国府台	主任技師	さいがた病院	技師	大 木 翔 平	さいがた病院	技師(採用)	国際医療戸山	非常勤



南横浜病院の思い出

NHO横浜医療センター 鈴木 喜久雄



南横浜病院は、1937年神奈川県立結核療養所として開院した後、1947年厚生省に移管され、以後横浜市を中心とした神奈川県内の結核医療において中心的な役割を担ってきました。

しかし、2008年12月1日をもって72年の歴史を閉じることとなりました。

私は、1991年より17年7ヶ月お世話になりましたが、転勤当初は細菌検査の経験も無く、途方に暮れた事がこの間のこのように思い出されます。結核検査においては、直接塗抹から集菌塗抹に変わり、表示もガフキー号数から菌量報告（－～3＋）になりました。培養法も小川培地から液体培地の変更になり、感受性検査も菌発育後2週間前後で報告できるようになりました。遺伝子検査も導入され、PCR検査では1日で検査結果の報告が可能となり



ました。このような検査法の転換期に携わることができ、貴重な経験をさせていただきました。以前に比べれば迅速に検査経過を報告でき、早い時期からDOTS（直接服薬確認療法）事業にも取り組み、神奈川県内の結核医療に十分貢献できたのではと思います。私の南横浜病院在職中は、技師長7名、副技師長6名の方々と一緒に仕事をさせていただきましたが、毎年のように歓送迎会を開いていたように思います。しかし、検査科の人の入れ替わりが多い割には先生方や看護師さんとの交流も多く、楽しい日々を過ごすことができました。院内の中庭で野菜作りをしたり納涼会を開いたり、今となっては古き良き時代の思い出です。また、桜の咲く季節になりますと、ソメイヨシノに始まり山桜、しだれ桜、八重桜と次々に咲き、隠れた桜の名所でした。特に細菌検査室の窓から見える冬の富士山は絶景で、毎日楽しませてもらいました。

国立病院機構も経営優先で結果を求められる厳しい時代となりましたが、南横浜病院での経験を生かし、



もう一度原点に戻り、いま何が自分にできるのかを考え、今後に生かして行きたいと思っています。

南横浜病院ありがとうございました！

地区会だより

平成20年度国臨協関信支部 群馬地区会研修会を終えて

NHO西群馬病院 松本 善信

秋晴れの10月18日（土）NHO高崎病院地域医療研修センターに於いて、平成20年度研修会が開催されました。

今回は、初の試みとして若手育成に着眼して、40歳以下の技師にスライド作成及び学会発表の準備等に慣れらるようY I A（Young Investigator's Award）を企画し、実行してみました。

高崎病院 熊谷豊技師「新棟における外来採血室の構想」、高崎病院 岸澤美帆技師「細菌性敗血症マーカープロカルシトニン」、高崎病院 竹淵友弥技師「診断に苦慮した硝子化索状腺腫の1症例」、西群馬病院 小坂橋歩技師「多発性骨髄腫について」の4演題が発表されました。採血業務への新たな試み、日頃の勉強の成果、学会発表の予演会と、若手技師が十分に企画を理解し、活用してもらえたことはうれしい限りです。また、発表へのアドバイス、質疑応答も活発に行われ充実した内容で、当初の予想よりもレベルの高い発表内容とスライド作成にはビックリ！自分自身のレベルの低さを再認識させられ、このまま学会に演題申し込みしてくださいと言いたくなるようなY I Aとなりました。

た。

その後、高崎病院 岡村治主任技師、西群馬病院 松本善信主任技師による「超音波画像で判定に苦慮した症例について」のディスカッション形式で討議が行われました。最後に、高崎病院 藤澤紀良副技師長による「異型輸血事故事例についての考察」の緊急講演が行われ、改めて、会員一人一人が血液型検査の重要性、輸血検査への心構えを再認識させられたことと思います。

研修会終了後は高崎駅前の居酒屋にて、沼田病院 青木会長の乾杯で交流会が催され、有意義な時間を過ごすことができました。

今回の発表にあたり、業務多忙の中、準備に努力した若手技師はもちろんのこと、技師長、副技師長、各職場の諸先輩方には、心からお礼を申し上げます。

編集 後記

新型インフルエンザの世界的な流行が起こってしまいました。弱毒性とはいえ感染力は強いようです。世界はもとより日本でも日々、発症者が増え政府の対応も変化し市民生活にも多大な影響が出ました。細菌検査室の方は、つねに新しい情報の収集と発信、そして迅速に対応、検査と忙しい毎日を送ったことだと思います。この号が発行される頃には終息して、平常に戻っていて欲しいと願っています。（広報部：峰岸正明）

新潟地区会第28回定期総会を終えて

NHOさいがた病院 平 原 博 美

平成20年12月6日（土）、西新潟中央病院会議室をお借りして定期総会を行いました。

9月に朱鷺が放鳥され始めての冬。雪国新潟とはいえこの日は例年より早い初雪の予報。急いで冬用タイヤに履き替えて新潟市に向かいました。

司会という大役を任せられ重苦しい気持ちでいるところに、予報通りに天気は荒れだし電車の遅れが聞こえてきました。全員が到着できるのか不安な気持ちで開会までを過ごしましたが、何とか定刻に開会できました。

総会に先立ち研修会として講演を2題お願いしました。まず平成21年3月を持ちまして退官を迎えられる横田彰さいがた病院技師長より「41年の歩み」と題し、その激動の人生の一端をお話いただきました。1時間程では語り尽くせないその歩みの深さの一端にふれ、一期一会に出会うひとときの大切さを感じました。

引き続き、永井正樹臨床検査専門職より「業務報告」をいただきました。冒頭のスライドには上越より望む米山の雄大な姿をお写しくださり、自然への敬意を抱かされ落ち着いた気持ちで厳しい話へと臨みました。連絡事項から国立病院機構や検査技師を取り巻く様々な状況まで、解り易くグラフや図式を用いて説明してくださいました。皆さんもご存知の通りの低いはっきりとした口調で難しい話も眠くならず聞けました。きっと頃もうまいのだろうな～と頭の中は時々脱線していたかもしれません。

総会では三浦隆雄関信支部長よりご挨拶いただいて

始まり、予定の議事をスムーズに進行できました。

最後に退官される横田技師長に地区会より記念品贈呈させていただきました。新しい時を刻んでいただけるようにと選ばせていただいたものです。

その後、場所を小針駅前「一富会館」に移し懇親会を開きました。ご同席いただきました林関信支部事務局長より乾杯のご発声をいただき、日本海の幸と飲み放題で会員相互の親睦を深めることができました。

その後も天気は大荒れ。遠路はるばるお越しいただいた永井専門職・支部役員をはじめ会員が無事帰宅できるのか…と最後まで心配でしたが、こんな新潟らしさがあってもいいかな！？と勝手に締めくくります！

ご出席いただいた皆様ご苦労様でした。

平成20年度 新潟地区役員

会 長	山 田 清 春	(西新潟中央病院)
副 会 長	新 保 利 一	(西新潟中央病院)
理 事	南 雲 伸 夫	(新潟病院)
理 事	千 葉 雅 裕	(さいがた病院))
会計監査	赤 堀 良 道	(新潟病院)



千葉地区懇親会を終えて

国立国際医療センター国府台病院 田 島 秀 昭

晴天に恵まれた平成21年2月21日(土)、サッポロビール千葉ビール園にて千葉地区会懇親会が行われました。例年はこの時期研修会を行っていましたが、今年度は千葉地区6施設の会員がいっそう交流を深める目的で懇親会を企画しました。

今回の内容は、ビール工場見学とジンギスカンの食べ放題です。送迎シャトルバスが会員の皆さんで満席になるほど、多数の参加者のもと始まりました。工場に着くと早速ガイドさん付きの見学がスタートし、約1時間のコースで、原料の麦芽や酵母といった段階からビールができる工程を、醸造、ビン詰め、パッケージングと普段ではなかなか知ることができない工程を見学し、皆さん興味深々でした。中でも圧巻だったのは広い敷地の中に人の姿はほとんどなく、オートメーション化された機械の中で何万本ものビールが流れていく光景でした。

見学も終盤に近づくと気のせいか、皆さん足早にゴール地点の楽しみにしていた試飲コーナーに向かっていました。このコーナーは20分と短い時間ながら、ビー

ルクラッカーを片手に数種類のビール(黒ラベル、エビス)を2杯3杯と飲み比べる姿が見受けられました。

その後、早くもほろ酔い気分でジンギスカン食べ放題の会場へ移動し、お酒の助けもあり、皆さん会話を花をさかせ、笑い声がたえない時間となりました。最後はお腹いっぱい、顔は真っ赤になった皆さんと記念撮影をして懇親会は無事に終了となりました。

今回、懇親会に参加し大変有意義な時間を過ごすことができました。千葉地区会としましては、今後もこのような親睦を深める機会を設けると共に、私も積極的に地区会活動に参加し、他施設の方々との交流の機会を大切にしていこうと考えています。



研修会のお知らせ

第5回 国臨協関信支部主催研修会

日 時：平成21年8月1日（土）13:00～15:00

場 所：国立国際医療センター戸山病院 国際協力局5F大会議室

内 容：生化学検査を担当するのに際して、
知っておくべきこと

講 師：飯塚儀明 先生(筑波大学附属病院 検査部 副技師長)

参加費：500円

ビア・パーティーのお知らせ

関信支部主催 ビア・パーティー

日 時：平成21年8月1日（土）16:00～18:00

場 所：ブラスリー 銀座ライオン 新宿エルタワー店

東京都新宿区西新宿1-6-1

新宿エルタワーB2F

電 話：03-3343-3636

アクセス：JR新宿駅 徒歩2分



「中期計画の新しい動向をふまえての研修会」に参加して

国立がんセンター東病院 吉 川 英 一

平成21年4月25日（土）国立国際医療センター戸山病院国際協力局5F大会議室において、国臨協関信支部主催の研修会が開催されました。当日は小雨が降り悪条件にも関わらず、会場は200名を越える多数の参加者で熱気あふれる盛大な研修会となりました。研修会は国臨協関信支部三浦隆雄支部長の挨拶に始まり、下記の内容で行われました。

1 「国臨協の使命と現状」

国立病院臨床検査技師協会 大貫經一会長

2 「新たな中期計画を見据えた、臨床検査部門の目指す方向性とは」

国立病院機構本部医療部医療課

奥田 勲 臨床検査専門職

大貫会長からは、「国臨協の組織概略」や「近年の国臨協事業」など現在の国臨協の状況について詳細に説明して頂きました。「ルーチンアドバイザー制度」などは、日常の業務において活用する機会が多く、些細な疑問や難問に至るまで最新情報をふまえ詳しく説明して頂くことが多く大変感謝しています。Webを活用した情報発信については、正確かつ迅速な情報を臨床に提供することは病院内における検査部門の存在価値を高める上で重要な要素となりうるものと思います。

奥田専門職からは、中期計画を見据え臨床検査部門の目指す方向性として「検査部門の今後の可能性」と、「我々の目指すべきもの」を御指導頂きました。

これからは検査の精度を向上させつつ検査室から飛び出し、

多くの職種と連携を図り新しい分野へ参画することが重要となります。今までの指示を待つ姿勢から積極的にチーム医療へ参加し、その一員として皆と同等のレベルでのディスカッションや検査技師の視点からの助言等を返すなどで、診療側に参加するのもそのひとつです。そのために「待つ」ことから「行動を起こす」といった意識改革が必要と感じました。当院では既に早出検査や治験業務に携わっており、臨床から高い評価を得ています。また、研究部門においても併任辞令の臨床検査技師が配置されています。この様に、著しい変化と共に多様化する医療において、各施設の特徴に添った独自の付加価値を高め、臨床に貢献することが臨床検査部門全体の存在意義を示すことに繋がると 생각합니다。また、施設間の情報交換や協力により複雑化する環境への対応が可能となると 思います。この度の研修で学んだことを基に、自己研鑽と共に、医療に必要とされる臨床検査技師の育成に貢献できるよう頑張る所存です。

最後に、本研修会の開催にあたり御尽力頂いた関信支部の役員の方々、お忙しい中講義して頂いた大貫会長、奥田専門職に厚くお礼申し上げます。



平成20年度退職会員を囲む「合同交流会」に参加して

NHO千葉医療センター 土 志 田 健

4月25日（土）、アルカディア市ヶ谷において恒例となりました関信支部主催の合同交流会が開催されました。この会への参加は2回目となりますが、初回は支部役員として当時事務局長だった松林技師長（宇都宮病院）とカミカミコンビで司会を努めており、緊張で会を楽しみどころではなかったため、実際には今回が初参加となります。



当日はあいにくの空模様でしたが、会場内は退職者9名の方々と始めOBの先生方と関信支部会員の総勢200名を超す人達で埋め尽くされ、外の天気を忘れさせるような賑わいでした。会は林事務局長の開会宣言ののち、三浦支部長の挨拶、秦OB会副会長および永井専門職の祝辞、小林技師長会会長の乾杯の発声でスタートしました。初年度は揃わなかったクラッカーも、3年目となると皆さんも心得たもので一斉に鳴らされ、一段と場を盛り上げていました。

歓談時には、退職者の方々やOBの先生方にご挨拶をすることができ、当時を彷彿とさせられ、自分が当時の若かりし(?)頃に戻った気分になりました。その反面、自分が考えていた以上に仲間が増えていることに経年を痛感させられるといった、不思議な時空間でもありました。また、仲間に新しい仲間を紹介すると、過去を暴露され苦笑いするしかないという場面もありましたが、とても楽しい一時を過ごすことができました。出席した皆さんも色々な楽しみ方をされており、名残惜しみながらの閉会となりました。

最後になりましたが、今回退官されました皆様におかれましては、長い間本当にお疲れ様でした。これからもお身体に気をつけてご活躍されることをお祈り致しますとともに、今後とも我々後輩にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

また、本会を開催するにあたり多大なるご尽力をいただいた三浦支部長をはじめ関信支部役員の方々にご心よりお礼を申し上げます、本会がますます繁栄することをお祈り致します。



平成21年度関信支部役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 名 賀 秀 己
委員 小 林 和 博
委員 原 田 哲 志

平成21年9月の関信支部総会において役員の改選を行います。国臨協関信支部役員推薦規定第2条により役員を公募します。候補者は下記の要領にて委員会に書類を提出してください。

記

1. 施設名・氏名・年齢・性別
 2. 職務歴
 3. 会員歴
 4. 国臨協関係役員歴
 5. 抱負（簡単に）
- 締め切り 平成21年7月3日（金）
提出先 〒284-0003

千葉県四街道市鹿渡934-5
独立行政法人 国立病院機構 下志津病院
臨床検査科 名 賀 秀 己